

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	企業の社会貢献活動としての「森と都市の交流プロジェクト」開発
対象地域	宮崎県綾町
活動概要	<p>①地域の課題 宮崎県綾町には、世界遺産への登録を目指す国内で最大規模の照葉樹林帯が残され、原生的な照葉樹林の保護とあわせ、人工林や二次林から照葉樹林への復元が課題となっている。これを推進するため、平成17年5月、九州森林管理局、綾町、宮崎県、関連NPO(てるはの森の会)、(財)日本自然保護協会の5者が綾川流域照葉樹林保護・復元計画(綾の照葉樹林プロジェクト)に関する協定を結んだ。 森林の保全のためには、森を支えるその地域に暮らす人々の生活の基礎的条件、とりわけ雇用の場がなければならない。森林地帯の地域振興を考えた場合、農林業等の地域資源を生かした複合的な産業の振興が必要とされている。そして、それは自然と共生することが大前提となる。 一方、企業や都市住民の森林保全に対する意識も徐々に高まりを見せており、自然と共生した地域振興の方向として、従来型の観光事業でない都市と森林地帯を結び交流事業が注目されている。</p> <p>②モデル事業で達成・実現したいこと 綾の照葉樹林を再生するための間伐や植林などの森林ボランティアと、地域資源を生かした生活体験型プログラムを組み合わせた交流事業を実験的に実施する。それを評価することにより、今後CSR(企業の社会的責任)活動のひとつとして継続できるプログラムを開発する。 それらにより、 1)地元での受け入れ体制を担う関係団体及び行政機関 2)首都圏での企画調整・広報活動および実践を担うNPO、CSR関係者 3)多主体の連携による地域マネジメントのノウハウの蓄積を担う研究機関 からなる、継続的な事業化のための推進組織の構築を目指す。</p>
今年度の主な取組	<p>1. 森と都市の交流体験機会は有意義であり、その拡大が期待されている ・ 交流体験プロジェクトに参加した、首都圏、宮崎市、地元すべての方から、大変有意義あるいは有意義との意見を得た。 ・ 近年インターネットなどで手軽に情報入手ができるようになっているが、そのような時代であるからこそ、現地での体験や交流が新鮮であり、人を感動させ、次の動きにつなげるために大切である。 ・ 交流体験を継続するための方策について、地域、企業(森、都市)双方で検討が必要である。</p> <p>2. 都市と森の相互交流が重要 ・ 地元では当たり前にも思われていることに価値があるということ、外部の人が入ること、地元が再認識することができる。 ・ 地方の人が都市に行き、その問題点を知り、都市から地方を眺める機会を得ることは、地方の良さを再認識することにつながる。都市から森への一方通行ではなく、相互交流が大切である。</p> <p>3. CSR活動をより多角的なものとして捉えた取り組みが効果的 ・ 当初は直接営利に結び付かない企業のCSR活動(社会貢献等)を軸とした森と都市との交流促進を想定していたが、急速な企業経済状況の変化もあり、CSRをより多様な概念として取り組むことが必要かつ適切であると認識された。</p> <p>4. 収益事業への足固め～次年度以降の補助継続を ・ 今回のようなモデル事業は有効であるが、将来的に補助金がなくとも継続できるしくみとするため、収益性を持った事業構造と事務局機能の継続が不可欠である。</p>

活動結果	<p>「<u>森と都市の交流体験機会の創出</u>」の観点からは、交流体験プロジェクトに参加した、首都圏、宮崎市、地元すべての方から、大変有意義あるいは有意義との意見をj得ており、コミュニティの創生に有意義な活動であったと考えられ、その拡大が期待される。</p> <p>近年インターネットなどで手軽に情報入手ができるようになってきているが、そのような時代であるからこそ、現地での体験や交流が新鮮であり、人を感動させ、次の動きにつなげるために大切であるjと考える。また、交流体験を継続するための方策については、地域、企業(森、都市)双方で十分な検討が必要である。</p> <p>「<u>都市と森の相互交流</u>」の観点では、地元では当たり前jに思われていることに価値があるjということ、外部の人が入ることで、地元が再認識する効果がある。地方の人が都市に行き、その問題点を知り、都市から地方を眺める機会を得ることは、地方の良さを再認識することにつながる。都市から森への一方通行ではなく、都市と森との相互交流が重要である。</p> <p>「<u>CSR活動</u>」の観点からは、当初は直接営利に結び付かない企業のCSR活動(社会貢献等)を軸とした森と都市との交流促進を想定していたが、急速な企業経済状況の変化もあり、CSRをより多角的に捉え、より多様な概念として取り組むことが必要かつ適切であると認識した。</p> <p>今回のようなモデル事業は有効であるが、将来的に補助金がなくとも継続できるしくみとするため、収益性を持った事業構造と事務局機能の継続が不可欠である。</p>
当初予想していなかった効果	<p>(<u>企業CSR活動の実情の理解</u>)</p> <p>昨今の経済情勢から、ボランティア的な企業CSRは少なくともしばらくは停滞するものと考えられるため、企業の収益やイメージアップに明確に貢献するとともに、地域にも貢献する事業内容とする必要性が非常に大きい。</p> <p>(<u>地域の組織間における協力関係の構築</u>)</p> <p>交流プロジェクト実施の中で、参加した地元の空道地区からは、「交流を通じて地元の良さや、照葉樹林を保全することの大切さに気付かされた。」という意見が出され、交流機会を継続したいとの意向が示された。これまで関連の薄かった照葉樹林の再生活動に取り組むてはの森の会と、綾町の自治公民館組織の一つである空道地区の協力関係を築く契機となった。</p> <p>(<u>包括的な取り組みの必要性</u>)</p> <p>森の保全再生と有機農業は一見結びつかないようであるが、綾町においては自然との共生をベースとしてまちづくりを進めている。大きな自然に抱かれたなかで人間が生き、虫も植物も生きている。その価値を共有することで、ひとつひとつのプロジェクトが意味を持ち、つながりが生まれ、まちとしての個性や魅力が高められることが、今回の事業を通して理解された。</p> <p>また、小さな町ではひとつひとつのプロジェクトに関わる人数は少なく、一方一人の人がいくつもの役割を担っている。森の再生や交流についてもそのようなことを理解しながら進めることで、地域でより多くの賛同者が生まれ(活躍の場をつくる)、継続性が高まると考える。</p>
実施状況(写真)	 <p>【写真】交流体験プロジェクト(照葉樹林再生のための間伐体験とガイドツアー)</p>
応募団体名	特定非営利活動法人 木の家だいすきの会
リンク	http://www.kinoie.org
部局/担当者名	代表理事 鈴木 進
連絡先	04-2926-6045
推薦市町村名	宮崎県綾町